

令和6年度 国語問題研究協議会（2024年8月23日 14:50-16:50）

シンポジウム:「国語に関する世論調査」に見る日本語の現在

—言葉、文字・活字文化を見つめ直す—

於:きゅりあん（品川区立総合区民会館）5階 第2講習室

「国語に関する世論調査」 その意義とオープンデータ化への期待

田中ゆかり（日本大学文理学部）

1

アウトライン

1. 「国語に関する世論調査」の意義
2. 「国語に関する世論調査」の活用方法
3. 「国語に関する世論調査」の課題
4. 「国語に関する世論調査」への期待

2

2

「国語に関する世論調査」の意義

3

3

「国語に関する世論調査」の意義

- 文化庁国語課が平成7(1995)年以降、毎年度実施する大規模な言語意識調査
- 全国に居住する日本国籍を有する16歳以上の個人を対象とした無作為抽出調査
- 調査方法と調査対象総数
 - 平成7(1995)～令和元(2020)年度:面接調査法、6,000人
 - 令和2(2021)年度以降:郵送調査法、3,000人
- 目的:「国語施策の立案に資するとともに、国民の国語に関する興味・関心を喚起する」

武田康宏(2021)、田中ゆかり(2021)

4

4

「国語に関する世論調査」の意義

- 第1回以降すべての調査結果がサイト公開されている
 - 調査概要
 - 全調査項目の単純集計結果
 - 一部の調査項目×回答者属性（年代、地域、性）のクロス集計結果
 - 一部の同一調査または類似調査項目の年度間比較結果
- 世界でただ一つの国による継続的な無作為抽出による大規模言語意識調査（たぶん）
- その調査結果の概要が毎年度ほぼ同時期（秋ごろ）に公開される
- プレスリリースされることによって広く報道される

5

5

令和4（2022）年度調査の概要

- 調査主体：文化庁国語課（業務委託先：一般社団法人中央調査社）
- 調査目的：現在の社会状況の変化に伴う日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し、国語施策の立案に資するとともに、国民の国語に関する興味・関心を喚起する。
- 調査時期：令和5年1月16日～3月15日 調査対象：全国16歳以上の個人 調査対象総数 6,000人 有効回答数（率） 3,579人（59.7%）
- 調査方法：郵送法 ※ 令和2年度調査以降、調査方法を令和元年度調査以前の面接聴取法から郵送法に変更した。
 - ※ 令和4年度調査は、令和元年度以前の調査（調査員による面接聴取法）とは調査方法が異なるため、令和元年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要である。

6

6

令和4(2022)年度調査項目を「目的」に照らすと…

- 「国語施策の立案」
- 文化審議会国語分科会「報告・答申」に関連する項目群
 - 「Ⅱ ローマ字表記に関する意識」
 - ＜問9＞ 日本語をローマ字で書き表すことがあるか
 - ＜問9付問＞ どのくらいの長さまで日本語をローマ字で書き表すことがあるか
 - ＜問10＞ ローマ字表記を知っているとどのような利点があると思うか
 - ＜問11＞ 学びやすいと思うローマ字表記
 - ＜問12＞ ローマ字の長音符号の代わりに使いやすいと思う表示

7

7

令和4(2022)年度調査項目を「目的」に照らすと…

- 「国民の国語に関する興味・関心を喚起」
- 「Ⅰ 国語とコミュニケーションに関する意識」
 - ＜問1＞ 言葉の使い方に対する意識
 - ＜問1付問＞ どのように気を使っているか
- 「Ⅲ 言葉遣いに対する印象や慣用句等の理解」
 - ＜問13＞ 使うことがある言葉か（「推し」「盛る」等を使うことがあるか）
 - ＜問14＞ 気になる言葉か（「推し」「盛る」等が気になるか）
 - ＜問15＞ 「涼しい顔をする」「忸怩たる思い」等の言葉は、どちらの意味だと思うか

8

8

「国語に関する世論調査」の活用方法

9

9

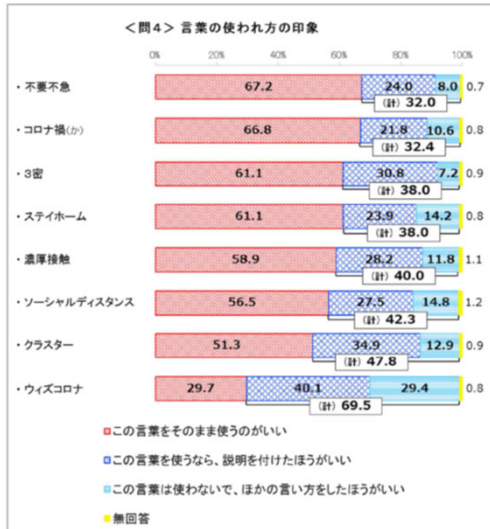
活用方法

1. 「報告書」を読む
 - ① 一種の「オープンデータ」としての活用
 - A) 認知度・理解度・許容度等について尋ねる項目の項目間比較とその背景分析
 - B) 同一項目/類似項目の経年比較、回答者属性比較（年代差、地域差、性差）
 - ・ 年齢＞職業＞性＞地域＞都道府県＞都市規模（田中ゆかり2001）
 - ② 調査方法による比較
2. メタ分析の視点で読む
 - ・ 「世論調査」と新聞記事DB
3. 日本語社会の実態と調査目的をリンクさせる
 - ・ 「世論調査」と言語景観・言語サービスの実態

10

10

I.①A項目間比較:令和2(2020)年度<問4>



【選択肢】

- 「そのまま使うのがいい」
- 「説明を付けたほうがいい」
- 「ほかのいい方をしたほうがいい」

【コロナ関連用語】「そのまま」降順
60%以上: 不要不急/コロナ禍/3密/ステイホーム

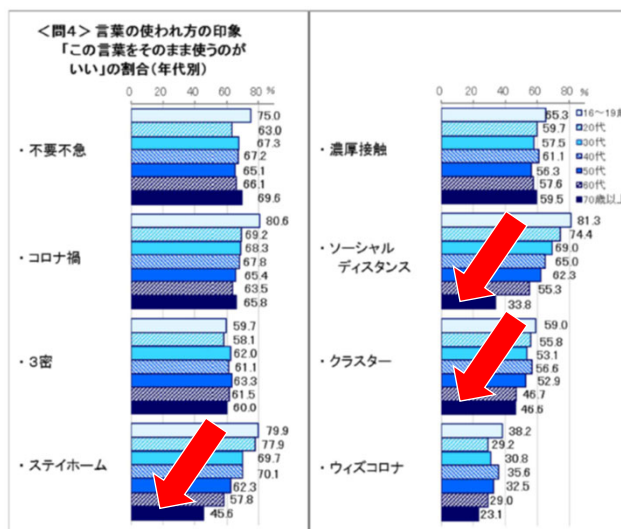
59%未満: 濃厚接触/ソーシャルディスタンス/クラスター

30%未満: ウィズコロナ

※そのまま60%未満

11

I.①B回答者属性比較:令和2(2020)年度<問4>



【コロナ関連用語】

「そのまま」年代%差降順

①ソーシャルディスタンス: 45.7

②ステイホーム: 34.4

③ウィズコロナ: 15.1

④コロナ禍: 15.2

⑤クラスター: 12.4

⑥不要不急: 12.0

⑦濃厚接触: 4.8

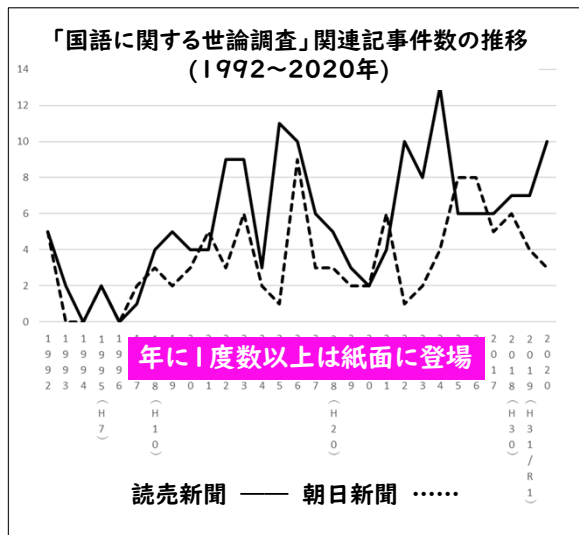
⑧3密: 3.6

※高年層ほど「そのまま」低下

12

12

2.メタ分析で「世論調査」を読む:新聞記事DB



順位	書字形	度数	順位	書字形	度数
1	調査	40	20	ことば	4
2	文化	33	20	メール	4
3	語	32	20	ら抜き	4
4	国語	32	20	意味	4
5	世論	22	20	市	4
6	言葉	20	20	社会	4
7	敬語	14	20	新聞	4
8	漢字	11	20	人	4
9	誤用	9	20	理解	4
10	若者	8	20	離れ	4
11	慣用	7	20	力	4
11	浸透	6	31	会	3
11	世帯	6	31	戸	3
11	本社	6	31	時代	3
11	1	1	31	1	3
11	1	1	31	1	3
17	生活	5	31	心	3
			31	調べ	3
			31	低下	3
			31	府	3
			31	文字	3

敬語 漢字 誤用 若者 慣用
メール ら抜き 意味

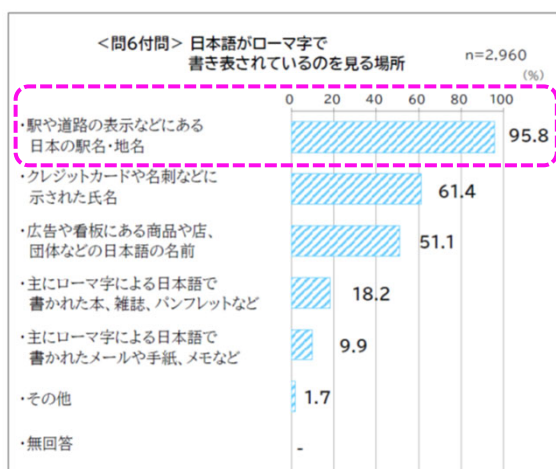
田中ゆかり(2021)

ヨミダス歴史館「国語に関する世論調査」記事
見出し形態素5度以上降順(コーナー名除去)

13

13

3.日本語社会の実態と調査目的をリンクさせる



「日本橋」のローマ字表記バリエーション
日本橋1丁目交差点 (2024/08/14撮影)



上:道路標識[建設省]修正ヘボン式
下:駅名表示[東京メトロ]ヘボン式

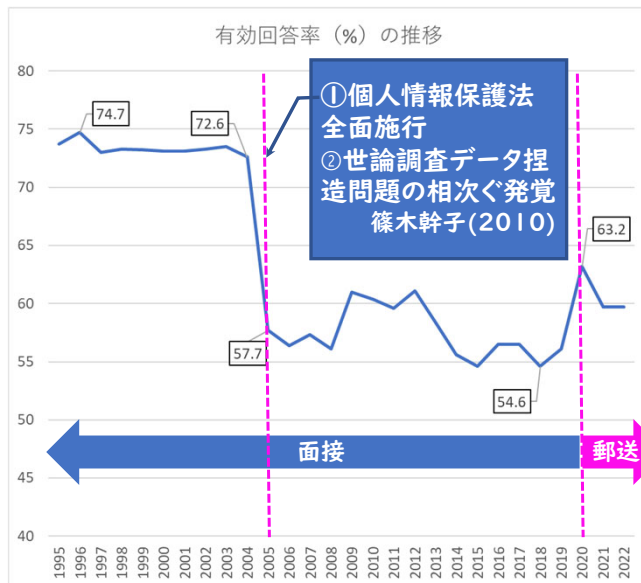
14

14

「国語に関する世論調査」の課題

15

15



「有効回答率」 「年代別有効回答率」 という課題

性・年齢	標本数	回収数	回収率	性・年齢	標本数	回収数	回収率
男 16～19 歳	111	56	50.5	女 16～19 歳	117	57	48.7
男 20～29 歳	322	124	38.5	女 20～29 歳	365	207	56.7
男 30～39 歳	407	209	51.4	女 30～39 歳	345	210	60.9
男 40～49 歳	446	226	50.7	女 40～49 歳	426	271	63.6
男 50～59 歳	501	288	57.5	女 50～59 歳	438	317	72.4
男 60～69 歳	415	295	71.1	女 60～69 歳	464	357	76.9
男 70 歳以上	703	442	62.9	女 70 歳以上	940	520	55.3
計	2,905	1,640	56.5	計	3,095	1,939	62.6

R4(2022)年度 性年齢別回収率

若い世代は顕著に低い

- ・ 10代女性:48.7%
- ・ 20代男性:38.5%

調査の意義と関心の涵養が必須
若年層にもリーチする企画・広報

16

16

「調査方法」の選択という課題

- 個別面接調査
 - H7(1995)~R1(2020)
- 自記式郵送調査
 - R2(2021)~R4(2022)

- RDD調査
- Web調査
 - 各種世論調査
- 複合的調査
 - 国勢調査
 - 2010年度~:ネット・郵送・調査員

- 調査方法は一長一短ある
- 調査方法を変更すると年度間比較が単純にはできなくなる

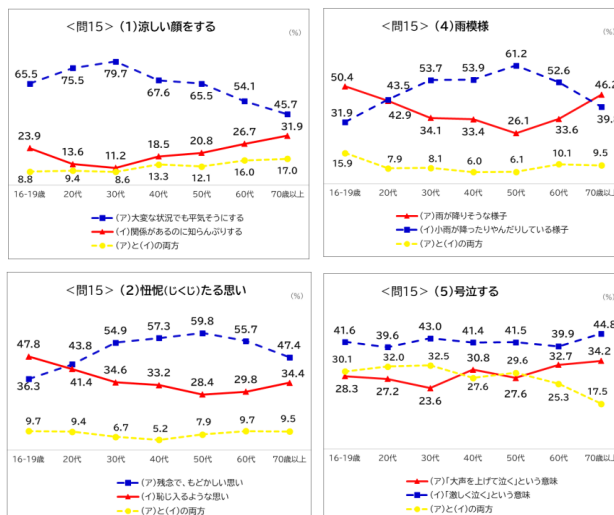
大隈昇・前田忠彦(2007、2008)
林直樹・田中ゆかり(2020)

【参考】

「エビデンス不全(4) 国勢調査、
「不詳」最大4割も綻ぶ統計、国の輪郭かすむ」
2024年7月22日 日本経済新聞
「郵送やネット回答を導入しても回答率は右肩下がり」
回答率:1995年99.5%→2015年:83.7%

17

17



「本来の意味」概略若いほど少ない

「本来の意味」
40代・30代が底
20代・10代増加

活用方法Ⅰ.②
調査方法による比較

郵送調査
迷う場合は「調べて回答」が可能

18

『国語に関する世論調査』への期待

19

19

本格的なデータサイエンス時代の到来

- **本格的なデータサイエンス時代の到来**
 - ・ 2016年:ROIS-DS人文学オープンデータ共同利用センターの設立
- **各種統計データポータル の充実**
 - ・ 「e-STAT 政府統計の総合窓口」 <https://www.e-stat.go.jp/>
 - ・ 日本政府観光局「市場別情報・統計データ」 <https://www.jnto.go.jp/>
- **言語資源の有償/無償の公開**
 - ・ 特定非営利活動法人言語資源協会
 - ・ <https://www.gsk.or.jp/catalog/>
- **学校教育の現場でも「情報資源を活用する学び」が求められる時代**
 - ・ 「情報資源を活用する学びの指導体系表」(改訂版)(公益社団法人) 全国学校図書館協議会 2024年8月5日改訂案

20

20

オープンデータを活用した日本語研究

- 国立国語研究所>データベース・コーパス・資料
 - <https://www.ninjal.ac.jp/resources/>
- 「鶴岡調査データベース」<https://mmsrv.ninjal.ac.jp/tsuruoka/>
 - 「日本語の大規模経年調査に関する総合的研究」(井上史雄、国立国語研究所、2012～2015年度)
- 「2023年度テーマ特集 オープンデータに基づく言語研究」『計量国語学』34(3)
- 横山詔一・相澤正夫・田中牧郎・久野雅樹・田中祐輔(2024)「新型コロナウイルス感染症の関連用語に対する社会的許容度」『計量国語学』34(4)
 - 令和2(2020)年度『国語に関する世論調査』報告書記載の数表をオープンデータとして活用した研究論文

21

21

本格的なオープンデータ化を期待

- 「国語に関する世論調査」のオープンデータ化
- 非営利・研究教育目的の場合は無償提供
- オープンデータ化検討組織の立ち上げ

【公開が期待されるデータ類】

- ① 調査項目の分類と対照を可能にする「分類問い一覧」
- ② 単純集計結果・クロス集計結果の電子データ(Excel形式)
- ③ 集計に使用した有効回答データ(Excel形式)

22

22

「国語に関する世論調査」の継続と発展を期待

- 『国語に関する世論調査』は、「世界にただひとつの大規模言語意識調査(たぶん)」
 - ・データに基づく国語施策の策定・検討のため
 - ・日本語や日本語社会への関心と理解を高めるため
- オープンデータ化は、「世界への発信」「国民への還元」「研究教育に貢献」を促進する
- 「世論調査」の継続と発展のために、各種課題を解決するための方略を検討する組織の立ち上げなども必要か

23

23

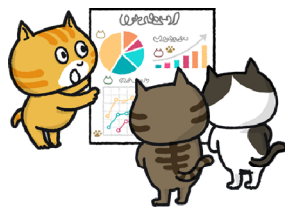
引用文献

- ・ 大隈昇・前田忠彦(2007)「インターネット調査の抱える課題—実験調査から見えてきたこと—(その1)」『日本世論調査協会報』100
- ・ 同(2008)「同(その2)」『日本世論調査協会報』101
- ・ 篠木幹子(2010)「社会調査の回収率の変化」『社会と調査』5
- ・ 武田康宏(2021)「『国語に関する世論調査』とは何か」『日本語学』40(2)
- ・ 田中ゆかり(2001)「被調査者の属性による偏りを持たない項目—『国語に関する世論調査』(H7調査～H10調査)から—」『日本語科学』9
- ・ 田中ゆかり(2021)「社会言語学からみた『国語に関する世論調査』」『日本語学』40(2)
- ・ 林直樹・田中ゆかり(2020)「多人数質問調査法の現在—ネット調査の利点と制約—」『計量国語学』33(4)
- ・ 文化庁「国語に関する世論調査」各年度「結果について」「報告書」
https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/index.html

24

24

ありがとうございました



25